
暖地水田における施肥窒素の消失に関する試験

齋藤文次・井ノ子昭夫・内田好哉

(九州農業試験場)

暖地水田において水稻基肥に施用した窒素が土壤中において消失する状況を探究する予備試験として、窒素消失についての生物的測定実験を行った。まず圃場試験で水田基肥に施用した窒素は短期間内にかんがりの量が消失し、これはまた窒素施用法によつて異なり水稻の窒素吸収歩合も施用法によつて異なることを認めた。ついで漏水を伴わない有底椎試験で、窒素を追肥重点に施用した場合は基肥に施用した場合に比較し、

施用窒素の 22% に相当する量だけ余計に吸収されていた。さらに裸地の水田に 7 月上旬一方には硫酸を全層施肥し他方には、硫酸相当量を尿素団子として施用して裸地状態を保つたところ、7 月下旬の土壤中の $\text{NH}_4\text{-N}$ 量にはつきり差がみられ、7 月下旬ここにナカセンゴクの晩植苗を挿秧し、成熟後水稻の窒素吸収量をみたところ、尿素団子の水稻は硫酸の水稻に比較して施用窒素量の 25% だけ余計に吸収していた。